

あるものを活かして、ないものをつくる

十和田の伝統工芸である南部裂織は、古くなった木綿布を細く裂き、再び新しい布地に生まれ変わらせる手法です。ここから、「あるものを活かして、ないものをつくる」という十和田に受け継がれた知恵を学び、設計に取り入れました。官庁街通りには樹齢100年を超える2本の桜の古木をはじめ、たくさんの既存樹があります。すでにある風景を活かしながら、新しい要素を慎重に織り込むことで、どこか懐かしいけれど全く新しい空間、既存の木々と、新しくしつらえる建築や庭が、互いを尊重しながら対話するような場所を目指しました。

■サンルーム

施設内の各所に配置される多目的空間。施設内の主要動線を担い、いつも多くの人が行き交うコミュニケーションのための場所。

○大きなガラス面から自然光が降り注ぎ冬でも暖かい。

■教育エリア

適応指導教育を行うエリア。
○教育支援の必要性の判定などを行う場として使用。
○他のエリアとの適切な距離感をつくる建物の分散配置と外構計画。

■図書エリア

図書の収蔵、貸出、閲覧を行うエリア。
○蔵書数約18万冊（うち児童図書2万冊、郷土資料1万冊）
○官庁街通りに沿って細長くのびる書架スペース。外部に面する大きなガラスから四季折々の風景を楽しみながら読書が可能。
○新聞・雑誌コーナー、AV・インターネットコーナーを併設。
○学習や閲覧が可能な、ソファ、カウンター、机、イスを設置。

■研修エリア

図書館事業や教師などの各種研修や会議などに使うエリア
○可動間仕切りにより幅広い利用形態に対応。
○サンルームとの一体的な利用が可能。

■外構エリア

○敷地にある既存樹を可能な限り保存。
○樹齢100年を超える桜の古木を保護。
○敷地外部との連続性、建物内部との連続性を意識させる庭。
○敷地全体が周囲に開かれた図書館。

■(仮称) 教育プラザ概要

- ▶建設場所 西十三番町620番1ほか
- ▶敷地面積 約9,540㎡(建物は約3,200㎡)
- ▶平成26年度完成予定

※基本設計書(概要版)は市役所企画調整課、各公民館、市民図書館などの公共施設や現代美術館などで閲覧できるほか、市ホームページでも公開しています。

※基本設計は9月末現在のものです。変更となる場合もあります。



※完成イメージ図(基本設計時)



四季を通じて光にあふれ、人々が憩い、語らうサンルームに「本ではない本」||「対話による、いきいきとした情報コミュニケーション」が集う

陸上競技場

中央公園緑地